**平和統一運動次世代リーダー育成のための**

**「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門及びエッセイ応募原稿フォーマット**

**■「私から始まる平和統一大賞」とは**

　朝鮮戦争によって分断された朝鮮半島と在日コリアン。先人たちが夢にまで見た「統一」はいつ来るのでしょうか？　最近の国家情勢で考えると問題があまりにも大きく見えて、何から手を付けて良いのか、わからなくなってしまうことはありませんか。しかし、皆さんが「心の壁」を乗り越えた小さな体験が、何かしら在日同胞の和合に役に立った事はなかったでしょうか？

　’為に生きる’神様主義の真の愛を根本精神として国籍と思想、組織を超越して、国内外の韓民族の和合と統一の実現を目指す平和統一聯合は、この度、皆様の「心の壁」を乗り越えた経験を、同世代や後に続いていく世代の力とするために、創設20周年記念企画としてこの賞を創設いたしました。

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | 「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門、会員及び一般部門　エッセイ募集 |
| 募集テーマ | 「私の心の壁を越えて始まった平和統一の経験」・自分の置かれている環境でぶつかった「心の壁」、なぜそれが「壁」であったか、どのようにして乗り越えたか、そのきっかけや周りからの言葉、勉強になったと思う自分の経験、そしてそれが在日同胞の和合、朝鮮半島の平和統一にどのように発展していく可能性があるかをスピーチ、または記述。 |
| 応募条件 | 平和統一聯合に所属している会員、担当者。または左記から紹介を受けた方。 |
| 募集期間 | 青年スピーチ部門：2024年６月16日（日）まで地方予選会員及び一般部門　エッセイ募集：2024年４月１日（月）～2024年６月17日（月） |
| スピーチ原稿規程 | 【青年スピーチ部門】　５分以上７分以内（制限時間を超過した場合は減点）。※パワーポイント使用可。【会員及び一般部門　エッセイ募集】800字以上3000字以内、１人１点。※両部門とも主となる言語を日本語で行うこと。部分的に韓国・朝鮮語、または他国の言語を使用しても良いが、日本語の意味を付け加えること。 |
| 応募方法 | Wordファイルのまま、応募フォームよりご応募ください。※ 青年スピーチ部門に応募の方も、同様に原稿を提出してください。 郵送、FAXでのご応募はご遠慮いただいております。 |
| 発表 | 2024年6月下旬　ホームページにて公開入賞者には、メールまたはお電話にて直接ご連絡をさしあげます。青年スピーチ部門の大賞受賞者は、７月４日東京都内の記念行事でスピーチします。その交通費は本部負担。 |

**題名：**｢私から始まる平和統一（エッセイ）｣

**お名前：**　鳥羽正博

(下記より本文をご記入ください)

「私から始まる平和統一というテーマでエッセイを書くに当たり、私自身の紹介を少ししたい。私は、この平和統一聯合という組織の発足時から関わり、長野県本部の初代事務局長を任命された。そこで、その辺りの経験を踏まえ、この大事業を推進するための私なりの抱負を述べてみたい。

　２００４年１１月２１日に、平和統一聨合第14連合会、長野・群馬・新潟県本部結成大会を、長野市のホテル国際21長野の大ホールで開催した。

来賓には劉大行本部常任顧問、朴尚得・元朝鮮大学校教授、中島衛・元科学技術庁長官、具末謨・平和統一聨合中央会長、山崎圓快･天台宗大僧正に加え、特別来賓で、姜英勲元韓国国務総理を迎え、極めて、格調の高い顔ぶれで開かれた。大会には、約１０００名が参加した。姜元国務総理は「平和統一聨合の活動に大変感動する」と述べた。なお　姜元国務総理ご夫妻を歓迎する為に、翌日は善光寺と戸隠観光にお連れした。善光寺は、全国的に割と有名な寺ではあるが、韓国と深い縁がある事はあまり知られていないので、ここで少しご紹介させて頂きたい。

「善光寺縁起」によれば、起源５５２年年１０月、韓国百済の聖明王が日本の安寧を願って、当時の日本の欽明王に阿弥陀仏を献呈された我が国最古の仏像であると言うことである。

さて、姜英勲元国務総理ご夫妻を、善光寺にお連れした際には、当時の住職「鷹司 誓玉（たかつかさ せいぎょく）ご上人様自ら出迎えて下さり、めったに入れない奥の院にまで招いて下さった。そこで、大変驚いた事に、奥の院の床の間には、右に日本の天皇系の家系図の掛け軸、そして左には、韓国の李王朝の家系図の掛け軸がしっかりと飾られており、毎日祈祷されていた。まさに、善光寺は超国家超宗派の寺院であり、日韓のかけ橋となる寺だと確信できた。

またここで、長野のワンコリア運動もご紹介したい。１９９１年の千葉世界卓球選手権大会の時に、史上初の南北統一チーム「コリア」が結成された。しかもそのチーム「コリア」が女子団体優勝を成し遂げた。この統一卓球チームが長野で合宿したので、その当時、長野の民団と総聯が一緒に合同チームを大歓迎して食事会や歓迎会を開いた事を縁の始まりとして、その後、長野ワンコリアとして、定期的に民団と総聯が御花見会や食事会などを開いて、せめて、長野の在日だけでも和解しようというスローガンの下で、共催の企画を継続して来た。更に、その後、民団長野支部と総聯北信支部の幹部達が、「ワンコリア無尽」を毎月開催して来た。そんなある集会の時に、総聯側が、朝鮮大学校教授の卞宰洙（ピョンジェス）氏を講師として呼んでいた。参加していた平和統一聨合のメンバーが自己紹介したところ、ピョン教授が『統一教会の人達か？私は文鮮明先生を大変尊敬している。金日成主席が文鮮明先生と抱き合った。金日成主席も腹があると感動したが、文鮮明先生も腹がある偉大な人物だと思ったのである。だから、もし、私を呼んでくれれば、いつでも話に長野に来ます」と言われた。その感動的な出会いの縁を大事にして、その後、何度か、卞先生を長野にお呼びして講演して頂いた。

そんな中で、金信雄会長の提案で、ワンコリア訪韓ツアーが企画され２００５年５月１９日～２２日に、約１０名が参加して行われた。そこには、平和統一聨合の具末拇謨中央会長、金信雄会長の他、民団長野支部幹部３名、総聯北信支部の幹部３名も参加した。２０日、世界日報社で見た「平城少年芸術団ソウル公演」のビデオの中で、平城少年芸術団(北)と、リトルエンジェルス(南)の少女達が涙を流しながら抱き合っている場面を眺めて参加した在日の幹部達は、ほぼ全員が込み上げる涙をこらえ、すすり泣いていた。金信雄会長は「子ども達は本当に純粋だ！純粋な心で南北統一を願い涙を流して抱き合う姿を見て、本当に申し訳ないと思った。悪いのは大人達だ。子供達のためにも早く南北統一をしてあげなければならない！」と述べた。

しかし、ここで特記したい事は、我々地方でのイベントより、遥かに大きな影響力を発揮した物は、やはり本部が企画実行された全国規模で行われたイベント行事であった。

そのような大掛かりな全国イベントに、民団・総聯の幹部が大勢参加することにより、確実に南北統一の機運が増大してくると同時に、南北統一は文先生の創設された団体が中心となって進んでいくし、文先生御夫妻こそ南北統一を成就してくれる正に救世主であるという雰囲気が醸成されて来た。世界サミットに参加し，清平まで行った金会長は次のような感想を述べた「赤白黄色、世界中から超ＶＩＰが参加して真剣に英語で討議していた。一人の人間（文先生）がここまで出来るのか！俺は、度肝を抜かれて、縮みあがったよ！」。そして、長野に戻った後も、まだ疑心暗鬼な民団・総聯の友人達に、誤解を解きたいと説得していた姿が印象的だった。

地方での地道な活動が全国の民団・総聯の和合統一、祖国の南北統一に少しでも寄与できれば幸いと思う。色々あったが、長野県出身者の鄭進氏・呉健太氏という民団県本部団長が二代続いて合計６年間も全国団長を務めたということは、偶然ではなく、この長野県が南北統一に貢献しなければならない大きな使命と責任があるのではないかと感じた。同様の使命と責任と言う意味では、かつて第二次世界大戦末期、日本は、「大本営」を長野県長野市松代に移動する為に、大急ぎで地下豪を作り上げた。韓国からや在日朝鮮・韓国人も集められて重労働をしたと言う記録もある。一説によれば、朝鮮半島から強制連行で労働者として送り込まれ、犠牲になった人もいたとの記録もある。そのように日韓関係の暗い部分の象徴的な場所も宿している長野県であり、その償いの為にも、日韓の平和友好関係、南北平和統一の為にどこよりも尽力しなければならないという使命と責任を感じる。

また、呉公太団長とは、感動的な出会いもあった。それは、２００６年７月７日の

ユニバーサルバレー長野公演の時の事である。私は、このバレエ公演に駐新潟大韓民国総領事夫妻をお招きし、金光圭・駐新潟大韓民国総領事夫妻が参加して下さった。

公演直前に、ご夫妻にご挨拶にお伺いした際に、そこに、金光圭総領事から誘われて来ていた呉公太民団長野県本部団長がおられたのだ。更に、金光圭総領事は、次のような事を言われた『統一グループは大変大きな力を持っておられる！これからも是非民団を助けて下さい』私は「勿論です！」と述べ、呉団長と固く握手をした。

これらの活動を通じて感じたことは、やはり南北統一は、理念理屈じゃなく、具体的な人間の縁を元に、地道に努力を積み上げていくしか方法は無いだろうということである。また、善光寺のような歴史的な結びつきを大事にして、近代の不幸な関係による対立を越えて長く大きな視点に立って和号する努力実践を飽くことなく継続していくことであろう。「血は水よりも濃い」と文先生が言われたように、同じ民族として必ず一つになれることを信じて！さらに、文先生が「愛は血よりも濃し」と言われたように、我々統一聯合が、対立してきた兄弟を和合させてあげられる真の愛（父母の愛）を如何に実践できるかが重要なカギであることは間違いない。